阪神・淡路大震災救援活動記録 : その時浄青は / 近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"編 - 発行:長崎 : 全国浄土宗青年会, 1997.6. 請求記号:震災-7-233. p38-39

2月 6日（火）	**第6回救援本部委員会（浄土宗宗務庁）**
3月14日（木）	**第5回理事会・第7回救援本部委員会（プリンセス有馬）**
4月 8日（月）	**ボランティア実行委員会準備会議（神戸・銀平）** **近ブロ浄青の一委員会としてボランティア委員会を発足** **名称を“JIVA”とする。**
5月 9日（木）	**近ブロ浄青総会（浄土宗宗務庁）**
11日（土）	**武崎組　阿弥陀寺『母の日（花まつり）フェスティバル』**
午前10：00～ **午後 3：00**	**内容：“円山GOGO5”コンサート、屋台出店、** **花束プレゼソト、追悼法要等**
17日（金）	**第8回救援本部委員会（京都・ギオンホテル）**
6月21日（金）	**救援委員会（神戸・ワシントンホテル）**
7月20日（土）	**神戸組　願成寺『納涼夏まつり』開催（企画：神戸浄青）**
午後 3：00～ **午後8：00**	**内容：追悼法要、のど自慢大会、コント、大喜利、** **屋台各種等**
9月10日（火）	**JIVA委員会（ホテル・ニューアルカイック）**
11月 8日（金）	**JIVA委員会（尼崎・常楽寺）仮設住宅に対するアンケート実施**
12月 6日（金）	**第10回救援本部委員会（大津・ロイヤルオークホテル）**

ボランティア実行委員会（JIVA）内規

（名称）

第1条　本会はボランテイア実行委員会「JIVA」※（ジーバ）と称する。
※「JIVA」とは、サンスクリット語で『命』を意味する。

（組織）

第2条　本会は近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会（以下「近ブロ救援委員会」とする。）直属の組織とし、本会の主旨に賛同する浄土宗僧侶及び檀信徒をもって組織する。

（目的）

第3条　本会は浄土宗僧侶の立場から人命尊重、社会教化を目的とした布施行の実践として活動を位置づけ、災害発生時等に際し緊急かつ継続的な救援を行うことを目的とする。

（活動）

第4条　本会は前条の目的を達成するため、次の活動を行うことができる。

（1）　災害発生後被災地に対して物心両面の救援活動を行う。

（2）　緊急時における行動の基本となる資料の作成を行う。

（3） 他の団体との連携を図り、災害救援に対するネットワークを確立させる。

（4） 人材名簿を作成し緊急支援体制を確立する。

（5） その他前条の目的達成のために必要な活動を行う。

（役員）

第5条　本会に次の役員をおく。

（1） 委員長　1名

（2） 副委員長　1名

（3） 委員　若干名

（役員の選出）

第6条　（1） 委員長は近畿ブロック浄土宗青年会理事長（以下「近ブロ理事長」とする。）が推挙し、近ブロ救援委員会で承認を受ける。

（2） 副委員長は近ブロ理事会が推挙し近ブロ救援 委員会で承認を受ける。

（3） 委員は委員長が選任する。

（役員の職務）

第7条　（1） 委員長は本会を代表し会務を統理する。

（2） 副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはその職務を代行する。

（3） 委員は委員会を組織し、本会の会務を協議決定する。

（役員の任期）

第8条　役員の任期は2年とし再任は妨げない。但し、任期中の役員交代あるときは前任者の残任期間とする。

（会議）

第9条　本会は委員長が必要と認めた時、随時これを開催できる。<

（議事及び議決事項の定足数）

第10条 委員会は出席者の過半数で決しなければならない。

（議事及び議決事項の実行）

第11条　（1） 委員会での議事及び議決事項は近ブロ救援委員会において報告し承認を受け、議決事項の内容により各教区浄青会員と共に実行する。

（2） 実行にあたり必要に応じて他の支援を要請することができる。

（財源及び基金）

第12条 各種寄付金及び災害救援募金活動等の浄財を充てるものとする。

（会計年度）

第13条 本会の会計年度は毎年1月17日に始まり、翌年1月16日に終わるものとする。

（会則の改廃）

第14条 本会則の改廃は委員会の議を経て近ブロ救援委員会の同意をもってする。

★　　★　ジーバステッカー　★

『しっかり手を握って「つらいですね」と云う言葉と涙を流すしかなかった。』と実感させられた。阪神・淡路大震災のボランティア活動に参加した者の願いで、近畿ブロック浄青の仲間で、ボランティア実行委員会「ジーバ」が、発足されたのです。そして、その願いは、法然上人の願い「お念仏を申しやすい明るく・正しく・仲のよい世の中に」であります。この願いを抱きボランティア活動をいたしましょう。（神田）

納涼夏まつり企画

日時　平成8年7月20日（土）祝日・海の日
　　午後3時～8時ごろまで

会場　神戸市兵庫区松本通2－4－1願成寺様

企画　神戸浄土宗青年会（兵庫浄青内）

内容　各教区・有志　1～2の屋台を企画
　　のど自慢大会・コント・大喜利・大道芸など。

目的　願成寺様及び壇信徒の方々の復興を目的とする。また願成寺周辺の一般地域住民の精神的ケアも考える。

各教区の出し物（屋台）

滋賀浄青　　（ゼリー菓子・ゲーム）
京都浄青　　（焼き鳥・えだまめ・かき氷）
奈良浄青　　（焼きそば・フランクフルト）
和歌山浄青　（すいか？）
兵庫浄青　　（焼きおにぎり・あてもの）
大阪浄青　　（生ビール・ジュース等）
知恩院有志一同　　（タコ焼き）
兵庫教区有志一同　（わんこそば）
※屋台のだしものは、（一応）ということです。

諸注意及びお願い

- 本堂内は煙草は禁煙、飲食も禁止とします。
- スタッフの服装は、できるだけ作務衣を着て下さい。
- 当日、各教区・有志の代表は、PM2：00に集合して下さい。
- 氷は事務局で一括して買います。事前に必費な量を申し出て下さい。

JIVA（じーばー）って　なぁに？

　浄土宗をお開きになられた法然さまの教えは、自分だけではなく他の人も救われる（自利利他）、この世も次の世も全ての人たちが救われる（万人救済）、「ナムアミダブツ」と口に出して言う「お念仏」の教えです。私たち浄土宗の若いお坊さんたちは、その「お念仏」の心を形であらわすために災害などで困っている人たちのお手伝いを行ってきました。
　そして、私たちは阪神・淡路大震災から1年半もたつのに、被災された人たちの中に前のような生活ができない人がいっぱいいることに心を痛め、またいつかどこかで同じような大きな災害が起こるかも知れないと心配し、そのために私達に出来ることはないかと考え続けました。そして、近畿地区の浄土宗の若いお坊さんで「ボランティア実行委員会」と言うグループを作り、『JIVA（じーばー）（昔のインドの言葉で「命」を意味します）』と名付けることにしました。『JIVA（じーばー）』は、まだ出来たばかりですが、これからの活動を、暖かく見守っていて下さい。

近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会
ボランティア実行委員会『JIVA（じーばー）』

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"(デジタル化：神戸大学附属図書館)

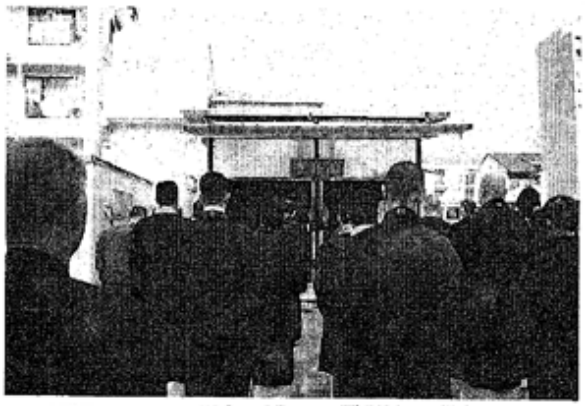
阪神・淡路大震災救援活動記録 : その時浄青は / 近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"編 - 発行:長崎 : 全国浄土宗青年会, 1997.6. 請求記号:震災-7-233. p40-41

平成9年

1月9日（木）	JIVA委員会（ホテル・ニューアルカイック）
16日（火）	兵庫教区・浄土宗・知恩院共催『阪神・淡路大震災物故者三回忌法要』厳修（神戸文化ホール）
17日（水）	近ブロ浄青主催『阪神・淡路大震災物故者三回忌巡礼回向』
午前5：30～	第1部　三回忌法要（尼崎・常楽寺）
午前7：30～	第2部　三回忌巡礼回向（尼崎～神戸長田区）
2月17日（月）	第11回救援本部委員会（京都教区教務所）
6月14日（土）	神戸組　浄業寺（本堂全壊）『父の日フェスティバル』開催予定

★　三回忌法要　常楽寺　★

★　満池谷斎場回向　★



★　三回忌回向　西福寺　★

★　長田区菅原商店街　★

阪神淡路大震災三回忌巡礼回向のご案内

阪神淡路大震災三回忌巡礼回向のご案内

近畿ブロック浄土宗青年会理事長　真泉善章
近プロ浄青救援委員会委員長　小林浩輝
ボランティア実行委員会委員長　神田真晃

日　　時　平成９年１月１７日（第一部）午前５時集合（第二部）午前７時３０分集合
集合会場　尼崎　常楽寺様（浦上上人）
内　　容　（第一部）阪神淡路大震災物故者３回忌法要
　　（第二部）浄土宗青年会に御縁あった御寺院・斎場等を車で巡礼する。

スケジュール

第一部（三回忌法要）

ＡＭ５：００	常楽寺様集合	（１階座敷）
５：３０	３回忌法要	（２階本堂）
６：００	法要終了・朝食	（１階座敷）

第二部（巡礼）

ＡＭ７：３０	集合	（常楽寺様１階座敷）	
７：４０	回願	（〃　２階本堂）	
〔到着時刻〕			〔出発時刻〕
	（午前の部）巡礼出発		８：００
８：２０	尼崎市	来迎寺（小島上人）	８：４０
９：１０	満池谷斎場	（施餓鬼会）	９：３０
９：４０	西宮市	西安寺様（佐藤上人）	１０：００
１０：１０	〃	西蓮寺様（貴田上人）	１０：３０
１０：４０	〃	阿弥陀寺様（増田上人）	１１：００
１１：１０	芦屋市	親王寺様（河北上人）	１１：３０
１１：５０	神戸市東灘区	西福寺様（伊藤上人）	ＰＭ１２：１０
ＰＭ１２：２０	〃	阿弥陀寺様（土佐上人）	回願・昼食
	（午後の部）巡礼出発		１：４０
２：１０	神戸市兵庫区	願成寺様（浜田上人）	２：３０
２：４０	〃　長田区	被災地　（施餓鬼会）	３：１０
３：２０	〃	極楽寺様（伊藤上人）	４：００
４：３０	〃　中央区	東極楽寺様（小林上人）	回願後解散

※ＰＭ５：００東極楽寺様よりバス出発　ＰＭ６：００尼崎ｱﾙｶﾎｲﾅ HOTEL到着

※ＰＭ５：３０より夕食会（有志）三宮で

主催　近畿ブロック浄土宗青年会
担当　近プロ浄青救援委員会
後援　全国浄土宗青年会

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"
(デジタル化：神戸大学附属図書館)

阪神・淡路大震災救援活動記録 : その時浄青は / 近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"編 - 発行:長崎 : 全国浄土宗青年会, 1997.6. 請求記号:震災-7-233. p42-43

［心のケアについて］

2月上旬、神戸市内の避難所での事です。ある大学生が足湯（あしゆ）の道具を持って避難されている方々に声をかけていました。足湯とは冷え性の人が血行を良くする為、膝から下をぬるま湯につける療法ですが、それ専用の用品が有るようです。女性・お年寄りは勿論、身も心も冷えきっている避難所の方々にとっては、本当に有りがたいものであっただろうと思われます。お婆さんが椅子に座り、その膝元で足湯のセットをする学生さん。その2人の姿勢は自然と会話を生み出します。大震災より半月が過ぎ、新聞等で“心のケア”が強調されていた頃、学生を中心とするボランティア達の必死の様子が、印象に残っています。

また次の様な活動をしている学生もいました。“お年寄りと話隊”というチームを組む福祉系の女子大生。ストレートに心ケアを打ち出して、避難所を訪ねて廻ったそうです。悪戦苦闘の連続であったようですが、そのメンバーの1人よりこんな体験談を聞きました。

「何も解からん若い女の子が何をしに来た！　ここに座りなさい。わしはな……」

頑固そうな老人にいきなり怒鳴られた彼女は、先ず2時間の説教にあいます。お昼になったので席を立とうとすると、

「昼ごはんやったら、わしが用意したる。避難所の冷たい飯を食って行け！」

夕刻にやっと解放された彼女は、大阪に泣きながら帰って来たそうです。初めてのボランティア活動、20才の彼女にとっては余りにも衝撃的な1日であったわけです。

“心のケア”という形にあらわれない目的に向かって、多くのボランティアが知恵と勇気をもって懸命に動きました。私達僧侶も浄青救援本部による活動のもとで、様々な事を経験し、活動させていただきました。被災された方々がそれをどのように受け取られたかは解かりません。かえって混乱を招いた場合も有ったことでしょう。

しかし、震災から6ケ月経った頃、避難されていた方々より、次の様な言葉を耳にしました。

……あの時はこんなボランティアがいたよ……

……あの時は学生がこんな事をして帰っていったなあ……と。

あの泣きながら大阪に帰った女子大生のとった行動も、今振り返ってみると頑固な老人の一つの心の支えになったのではないかと、私は思います。

人の心に何かを伝える、これは一朝一夕には果たせるものではありませんが、長い時間の中で実を結ぶ場合も有ります。

私達僧侶は、今回の救後活動で感じた事、また今後の経験をしっかり心に刻み、心の問題を請け負うプロとしての自覚と方向性を考えていきたく思います。（森）

★

1．心のケア

（1）心の傷

ア．　大人……　　恐怖、将来の不安、衣食住の問題と仕事がない不安。

イ．子供……　恐怖-寝る時に大人がいないと寝られない。高学年でもトイレに行けない。

- 避難所の子供会で子供に接した時
  - 子供達が人見知りをしなかった。
  - 精神状態がハイの状態であった。
  - 物をもらうのに抵抗がなかった、すぐ『何か頂戴』『何もってきてくれた』と声をかけてきた。
  - 言葉に敏感であった－『帰るね』と言うと『帰る家あっていいね』、腹話術の人形に『カバンの家があっていいね、僕も家ほしい』。

（2）ストレス

被災者の人は勿論だが、ボランティア活動した人も同じ心境になり、すごく大きなストレスを負担した。しかしそれを持って帰り、自らの家でいやすことが出来るが、被災者の人にはそれも出来ない事をよく実感した。

（3）何に苦労したか

ア．ボランティアの方法、ノウハウがわからなかった。

イ．宗教団体が活動するのに抵抗があられる人がいるのではと、懸念した。服装の問題など。

ウ．連絡網が切断され、情報収集が出来なかった。

エ．何をすべきか判断出来なかった。

オ．他宗の各団体との連携活動がなかなか出来なかった－神戸の斎場のみできた。

カ．交通状態。

（4）戸惑い

ア．どの様に話しかけたら良のかも分からなかった。ガンバッテと言う言葉もいけないと言われていた。

イ．出来なかった活動の方が多かった。考えていた活動の10分の1位。

ウ．喜んで頂く事ばかりでなく、文句や物も受け取ってもらえない時があった。

エ．後から来られた人が、空いている部屋の中に入れずに廊下で寝ておられたこと。

オ．この様な状況下では、何も出来ない自分に気づかせて頂いたこと。

カ．仏教の説話とか出して、アドバイスして良かったのか分からなかった。

キ．昼の顔と夜の顔が違う。昼は一緒にゲラゲラ笑っていた人が、夜に帰る時に挨拶しても知らん顔。次の日にそれを聞いてみると、『世の中が暗くなるとこわくなる』とのこと。心境の変化、情緒の不安定さがある。

2．心のケアーの体制は十分だったか

（1）宗教界は対応出来たか

ア．各宗で同じ様な活動をしていた。曹洞宗はボランティア組織があり活発に活動していた。

イ．各宗でも活動していたのは、青年僧が主体であったらしい。浄土宗は、全国浄土宗青年会に活動を委託した。

3．心のケアから見て、現在の復興は順調に行われているか。

ア．　問題はなにか

・行政からの依頼は全く無くなっているので、今何が必要なのか、話し合う場所も無いのではなかろうか。

4．避難所や仮設住宅で、傷ついた心を癒す事は出来るか。

（1）避難所や仮設住宅で、傷ついた心を癒す事は出来るか。

ア．　仏教での考え方では、苦しみを受けた時に、いかにして心を転換して、この世も後の世も安楽（心安らかで希望がわき、安心して楽しい生活が出来る状態）にすごしていける進行の道を説くのである。

イ．　不安ばかりで、明るい希望がもてない状態では、傷ついた心は癒す事は出来ない。

ウ．　衣食住の問題が解決しないと、心の痛み、傷、不安は取り除く事が出来ない。

エ．　安心して任せる事が出来る心になれる様な対応が必要。頼れる行政・頼れる人づくり。

（2）自殺者が出た問題

ア．　老人や子供がおられる家族から仮設に入れられ、後でお世話する人がいない事に気付くという問題や、周りの人とのコミュニケーションが出来ないのも後で分かるという対応のまずさが出てきている。

イ．　ボランティアが心の懸け橋的存在になって、訪問ケアが必要である。行政の支援で。

ウ．　人間生きて行く上で一番恐ろしい事は、孤独感である。それをいかにして癒し生きがいを持っていただくかであろう。

（3）仮設住宅で環境に対応出来ない人達を住まわせる事はいいことなのか。

（4）仮設住宅に移った時には、そこで新しいコミュニティーを作る努力が必要では。

ア．　自治会組織を確立し、そこで人の和をとれる様な活動を考える。

イ．　自治会、ボランティアに対して、行政よりの依頼、支援金を出す必要があるのでは。

（5）宗教人としてどの様に対応していくか

ア．　問題点

組織として今、ボランティア組織、ボランティア人員名簿もないので、将来結成する必要を考慮検討すべき点である。

イ．　課題

ボランティアのノウハウやカウンセリングの方法を研修、体験してすぐに活動出来る人材育成と派遣出来る組織体制の確立。

ウ．　ケア実践者のネットワークが必要ではないか

組織として、全日本仏教会、全日本仏教青年会があるので、そこで連絡協議しネットワーク作りをして頂きたい。

エ．　ノウハウの蓄積を共同で行う必要はないのか

パソコンネットワークを使い、行政がノウハウをまとめて情報交換の場所作りが必要と思う。

（5）心のケアを出来るボランティア人材の養成は必要か、どの様に行うべきか。

ア．将来の課題として、全国浄土宗青年会救援センターの中にも、人材育成や派遣の事を検討すべきと考えて行べきである。

イ．浄土宗の組織の中にも、将来の課題として人材育成やボランティア組織結成を考えて行べきであろう。

ウ．浄土宗の各宗門学校があり、その中で育成課程が出来ないであろうか。

5、心を大切にする都市作り

（1）心の触れ合う町作り

ア．お寺を心の安らぐ憩いの場所としての活動起点にならないであろうか。

イ．心の触れ合う人づくりを考える必要があるのでは。

ウ．生きがいのもてる人づくり、心の休まりかようレクレーションのセンター作り。

エ．仮設住宅の状態の様な老人の町、老人ホーム的な町作り。

オ．町内のお地蔵さん等を使った心の広場や行事。（神田）

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"
(デジタル化：神戸大学附属図書館)

阪神・淡路大震災救援活動記録 : その時浄青は / 近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"編 - 発行:長崎 : 全国浄土宗青年会, 1997.6. 請求記号:震災-7-233. p44-45

［総括］

おわりに

　以上が、私達浄青を中心として、震災の救援活動に関わらせていただいた概要です。
　書ききれなかった事、書き落した事もありますし、恐らく誤解や間違いもある事でしょう。言葉では言い尽くせない、表現出来ない事も、たくさんある様に思います。けれども少なくとも、この私が浄青活動の真っ只中にある時に、未曽有の大震災が発生し、救援活動にご縁があった、そしてそのお蔭で、さまざまな人々の暖かい心に触れる事が出来た。この事は、私にとりましては非常な悦びとなり、大いに勇気づけられた事だけは記しておかねばなりません。
　この一文を書く機会を与えていただきました近ブロ浄青（ジーバ委員会）に対し、心より御礼申しあげます。
　最後になりましたが、仏法興隆・念仏弘通のために、近ブロ浄青がますます発展します事を、常に念願いたしております。至心合掌（山中）

★

　私自身、充分な活動も出来ないまま、それが和歌山浄青の事情となってしまったことに於いて、反省とお詫びを申し上げたい。
　あせる思いの中、今何が出来るか、思いが募るばかりで、行動力が伴わないままに時を過ごしてしまった。
　大きなことは考えず、自分に縁のあった小さな活動の積み重ねが、実に大きな力になって行くという事をしみじみと今感じている。
　JIVAなる常設の救援活動委員会が発足し、何より心強い思いである。（榎本）

★

　いろいろな救援活動を続けてきて多くの矛盾や疑問にぶつかった。一つの例としてこんな話がある。『雪の降る日に、ある避難所に救援物資として900枚の毛布が配られた。しかし、その避難所には901人の避難者がいた。その毛布は渡されるととなく積まれたままになる。』行政は0か100である。多くの救援物資が使われずに倉庫に眠った事だろう。私達も様々なジレンマに陥りながらも続けられたのは浄土宗という一つの支えがあったからである。そして浄青という組織が確実に活動していたからである。未だに仮設住宅では孤独に亡くなっていく人がいる。震災は終わっていない。復興はできていない。
　私達は宗教家として襟を正し、謙虚に救援というものを考えて行くべきだと思う。また今後のこうした災害（あってはならない）に対して、もっと現実的かつ柔軟に対応できる組織が宗内にあれば望ましいと思う。
　個人的には震災からの活動で多くの事を学び、多くの経験をさせて頂いた。しかし震災がなかったら人

が死ぬ事も、家が潰れる事もなかったはずだ。みんな平穏に暮らしていただろう。そう思えばこんな事はしたくなかったし、また二度としたくない。災害はあってはならないものである。（小林）

★

最後に

私が今から述べる事は非常に極端な言い方になるが、「見つめるべきものは見つめなければならない。」地震は「苦」であった。

たくさんの人が苦しんだ。また苦しむ人達を見た。何かしなくてはならないと思った。私達は一体どれほどの事が出来たのか。何も出来てはいない。前と同じ程の人達が、今も苦しんでいる。いつもボランティアとか救援という言葉を口にするたびに、後ろめたいものを感じる。本当に人が救われるのは、多くの時間と何よりも本人の「苦を苦としてとらえ、これを乗り越えていこうとする気持ち」だと思う。その様な助けになる活動でありたいと思う。（高倉）

★

またいつか何処かで同じ様な災害が起きた時、また同じ事が繰り返されるのか、それとも行政府はすぐに災害救援に動き、交通は制御され、地震による火事は素早く消され避難所には水も食べ物も、着る物も全て準備され、避難所に既に設置されている情報伝達のネットにより、誰が何処の避難所にいるか、何が足りないかすぐに分かる様なシステムが出来上がっているのだろうか。（伊藤）

★

☆問題点

○ 自治会運営の資金が少ない。

○ 仮役住宅で活動するボランティア団体に支援金が行政より出なく、不足している。

○ 仮設住宅で700円しか手元になく、どうして年を越そうかと考えている人がいる。

○ 日赤が集めた義後金はどの様になっているのか。復興資金として道路等に使われているのでは。

＝この様な時こそ、宗教が必要ではないですか＝

この阪神・淡路大震災を私達が、どの様に受け止めて行くかという事になるのです。それは、この阪神・淡路大震災で起った苦しみや悩みは、今から2500年前のお釈迦様の時代から、もう既に人間の苦しみとして存在しているのです。それが仏教で言う無常感であります。お釈迦様は四苦八苦の中に、生老病死や今回特に多い問題としての愛別離苦（最愛の人と別れなければならない苦しみ）の苦しみを説いておられるのです。

仏教での考え方では、この苦しみを受けた時に、私達が信仰をもつ事により、必ず心の苦しみを転回して、この世も後も安楽（心安らかで希望がわき、安心して楽しい生活が出来る状態）にすごしていける事を説くのです。そして、悩み苦しまれている被災者の人が、各自の信仰の心を思い出し、神仏に生かされ、決して1人で生きているのではなく、優しい回りの人達やボランティアに支えられている縁起の法に気づいていただきたいと願います。（神田）

★

阪神・淡路大震災が起り2年余りが過ぎ、今だに不自由な生活を余儀なくされている方や、新たな問題に直面されている方も多くおられます。この報告書を作成されるにあたり、災害救援本部として行った活動に対して、（1）良かった点、（2）問題点（今後の課題等）について記したいと思います。

会議・活動等に関して

（1） 1月17日に地震発生、翌18日近ブロ理事会開催予定であった。今回の地震発生時、近ブロ事務局が京都に置かれており、大きな被害がなかったこともあり、理事会開催を決定し災害救援本部を設置することが出来た。
　このことにより、今後の活動方法（募金活動・人材派遣活動等）に役立ち、近ブロ・全浄青を含んで全国的な動きが出来るようになった。

（2） 災害発生時、理事長・事務局が速やかにその災害に対して動けるか。また緊急を要する場合、副理事長等が即決事項としてその対処を進めていかなくてはならないのではないか、等々。もしブロック内全域が活動不可能な場合、全浄青の近隣ブロックとの連携・活動支援体制を考えなくてはならない。

財政・募金活動等に関して

（1） 被災地に対する活動の財政支援は、全国寺院・浄青会員等よりの勧募・募金活動・全浄青救援センター・浄土宗・知恩院等による支援で、活発な活動を行うことが出来た。
　この財政支援により、緊急物資購入・輸送・配布に関するマイクロ・ユンボレンタル、また復旧作業工具等、また斎場回願・被災寺院見舞等の活動が行われた。

（2） 勧募・募金活動が行われる一方、緊急物資等、購入に関する費用は一時的ではあるが、各教区・個人に立て替えてもらう状態であった。
　緊急を用する資金については、何らかの方法において急遽に拠出できる状態に置くべきである（教区またはブロック単位では）。
　また活動に参加いただいた方々には、相当な個人的負担をしいたことになった。この点に関しては最期に渡るにつれ一考の必要があると思う。

これらの様に、後になって思い出せば、何分緊急時の事でもあり、即座に物事に対応していかなくてはならない。その一々の事柄に対して十分な対応がなされたか、疑問ではあるがその場その場で各自・各々の立場で対応していかなくてはならない。（塩竈）

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"
(デジタル化：神戸大学附属図書館)

阪神・淡路大震災救援活動記録 : その時浄青は / 近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"編 - 発行:長崎 : 全国浄土宗青年会, 1997.6. 請求記号:震災-7-233. p46-47

全浄青救援センター災害救援本部「阪神・淡路大震災」救援活動会計報告書

（単位：円）

年・月・日	摘要・科目	収入	支出
H7年1月19日～H8年3月31	全国・義援金等の収入	19,537,014	
1月20日	神戸市・救援物資		1,474,218
2月9日	青陽東養護学校・活動費		15,000
12日	毎日新聞社・子供救援金		5,000,000
24日	灘高等学校・うどん炊き出し		150,000
3月1日	青陽東養護学校・喫茶炊き出し		62,413
10日	長田区若松公園・ぜんざい炊き出し		105,885
4月13日	全日本仏教青年会・救援金		300,000
22日	青陽東養護学校・おでん炊き出し		91,429
5月13日	西福寺・母の日フェスティバル		805,443
20日	青陽東養護学校・運動会、カラオケ		205,432
6月8日	西安寺・屋台村炊き出し		313,914
20日	仮設住宅・救援物資（ふとん）		300,000
8月5日	灘区阿弥陀寺・神戸納涼盆踊り		523,215
9月10日	東極楽寺・写経の会		112,080
28日	西蓮寺・子供会		300,000
12月26日	毎日新聞社・子供救援金		5,000,000
通年	事務局・ポスター、募金箱		469,000
通年	事務局・通信費、事務費		64,787
H8年3月31日	義援金（活動費）残金	4,244,198	

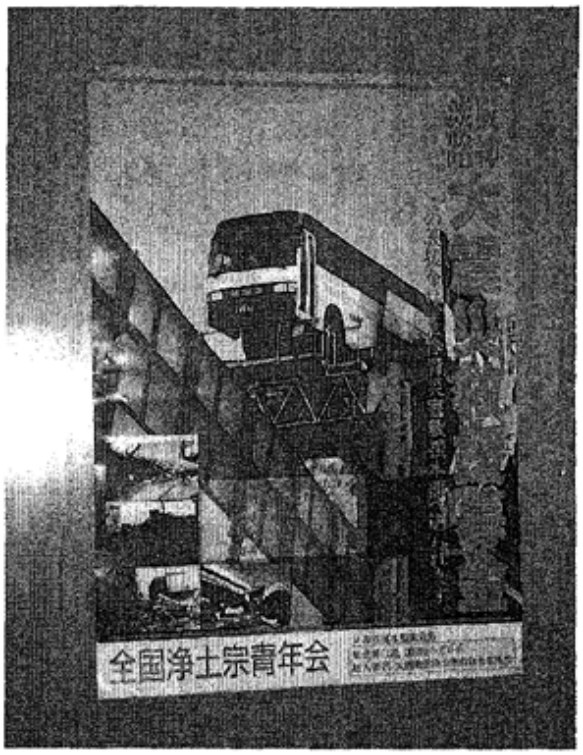
全国浄土宗青年会理事長　神田眞晃
災害救複本部本部長　塩竈義明
災害救援本部事務局　山本典雄

近畿ブロック浄土宗青年会「阪神・淡路大震災」救援活動会計報告書

（単他：円）

年・月・日	摘要・科目	収入	支出	残高
H8年4月1日	近ブロ預かり金	4,244,198		4,244,198
5月11日	第2回母の日花まつり（西宮・阿弥陀寺）		1,445,636	
8月20日	納涼夏まつり（願成寺）		1,347,345	
25日	郵送費・払込手数料		1,205	
9月2日	事務費（報告書作成費等）		51,930	
10月21日	会議費		37,080	
12月6日	葬式ボランティア派遣費		15,000	
30日	事務費（通信費）		10,281	
H9年3月31日	第1回中間報告			1,335,721

近畿ブロック浄土宗青年会
理事長　眞泉善章
監事　山本典雄



★　救援募金ポスター（H．7．2．27作成）　★★

今、何か……？

困っていること、悩んでいること、したいこと、ただなんとなく……、聞いてほしいこと。

お便り下さい。

私たち青年僧侶が、お返事します。

住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 年齢 ＿＿＿ 歳

（匿名でも結構です）

近畿ブロック浄土宗青年会

ボランティア実行委員会『JIVA』（ジーバ）

「心のケア」ボランティアとして、上記の様なハガキを作成して、仮設住宅等にお住まいの方々を中心に、100枚ほど配りました。5通のお便りを頂くことができ、内容は息子さんへの愚痴・お金が欲しい・『JIVA』への激励等で、手分けをして大切にお返事をお書きしました。地味な活動ですが、独り暮らしのご老人等を対象にして、続けていかなければならないと思っています。（山本）

募金ポスターと募金箱（H．7．7．18作成）　★

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"
(デジタル化：神戸大学附属図書館)

阪神・淡路大震災救援活動記録 : その時浄青は / 近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"編 - 発行:長崎 : 全国浄土宗青年会, 1997.6. 請求記号:震災-7-233. p48-49

「阪神・淡路大震災」
全浄青ボランティア活動アンケート報告

1．ボラティア活動を、行われましたか？（托鉢募金活動も含む）※1
YES ： 19　／　NO ： 7

◎YESの教区にお願い致します。
（1）活動の日時・場所・内容を出来るだけ詳しく教えて下さい。
○救援ボラティア活動　：1

- 救援物資の搬入
（市民に呼びかけて浄青会員が救援物資を集めた。1月末の3日間）

○托鉢募金活動　：16（街頭募金・募金箱設置・個人募金含む）

- 1回：3　2回：5　3回：1　それ以上：1　個人募金：2　募金箱設置による募金：3

○救援ボランティア活動と托鉢：5（近畿各県含む）

- 個人的に被災地へ協力
- 被災寺院にての納涼盆踊り大会開催
- 犠牲者の斎場回向
- 仮設住宅への日用品配付
- 避難所でのボランティア活動
- 寺院の解体、復旧作業
- 救援物資搬入
- 炊き出し
- 仮設住宅での茶話会

（2）活動に参加された延べ人数は、何人ですか？

- 6人　7人　12人　13人　15人　18人　20人　21人　24人　26人　30人　40人　45人　50人　70人　100人　150人位　300人位　計：約927人

（3）いつごろまで活動を続けられましたか？

- 1日：5　4日：1　3ケ月：1　H．7年夏：2　1年間：3　継続中：5

（4）活動費はどうされましたか？　いくらぐらい使われましたか？（交通費含む）

- 各自負担：11　一部を浄青負担：4（内別会計より支出：2）
- 使途金についての回答は、70万と90万の2件だけ

（5）活動のなかでお困りになった事があれば教えて下さい。

- 人数集めに苦労した
- 様々な募金活動と重なり、募金して頂く方に苦労をかけた
- 被災地の状況の情報が全く流れず、どこにどのような方法で行ったらよいかわからなかった
- 情報が錯綜していて「何が必要で、何が足りているのか」が定かでなかった上、救援物資の受付そのものが「打切る」「打切った」……と困惑した
- 自坊のお参りができない
- ポスターを作ってほしい（配付用1,000枚程）
- 雪のため参加人数が少なかった
- 普段の募金活動より皆熱心で、また街頭での反応もよかった
- 被災寺院で「納涼盆踊り大会」を開催したが、当日の朝、マイクロバスで出発し会場に2時すぎに到着。その後、盆踊り大会を行い、片づけが終了したが、10時とスケジュールがハードだった。

2. 今後ボランティア活動の予定はありますか？　あれば、内容を教えて下さい。

- 托鉢　　：3　（“9／9の日”に托鉢する：1）
- 仮設住宅への活動
- 予定はないが、為すべきときには為す心づもりです、何を為すかは臨機応変。
- 予定なし：14

※　目的：阪神・淡路大震災について、救援活動を実施した教区浄青があるか？
※　回答数：30
※1（1件は托鉢募金したが、地域福祉への募金ということで対象外とする）
※1（2件は托鉢募金したが、歳末助け合いの募金ということで対象外とする）
※　托鉢：3の数字は、回答の件数
※　アンケートの対象を教区浄青としたために、個人や寺院で活動されたことは出ていない。

（アンケート外）

- ある教区から『緊急事態の際、全教区浄青事務局に一斉にファックスを流し、「何が必要なのか」等を速やかに知らせるような（有事）ネットワークを確立頂けたら有りがたいです。人員や物資等を必要に応じて可能な限り手配できるよう、各教区が日頃から心掛ておく必要があると存じます。』とのコメントあり。

★　炊き出しボランティア（青陽東養護学校）　★

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"
(デジタル化：神戸大学附属図書館)

阪神・淡路大震災救援活動記録 : その時浄青は / 近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"編 - 発行:長崎 : 全国浄土宗青年会, 1997.6. 請求記号:震災-7-233. p50

編集後記

あの阪神・淡路大震災からもう2年が過ぎた。

平成7年1月19日の現場視察から始まった浄青会員の救援活動は、今日まで続いている。全浄青より、あの時の浄青会員の思いを、活動を記録しておいてほしいとの要請があり、近ブロ浄青に新しくできた救援委員会内のボランティア実行委員会（ジーバ委員会）が企画・編集を担当することになった。

この記録の編集方法は、近ブロ浄青を中心に、救援活動に携わった方々から、活動を通じて何を感じたかを記憶を辿って頂きコメントを頂戴し、順次日時に従って編集したものである。その当時は何もかも必死の思いで動いていた。2年という歳月が流れる中、今になってみて、気付くことも多いと思われた。この記録は、浄青会員の時々刻々の動きを記録するものである。

ある救援活動の後、一会員が「お念仏申すことがこんなにも辛かったことはない。反面、お念仏ができる有り難さをも感じた」と告白された。浄青会員が一つになれたことは、宗祖の教えのお蔭であると確信する次第である。

ないことを祈るが、今後このような災害時の参考にという思いで、できる限り様々な資料を入れて編集をした。決してスマートな紙面ではないが、2年間の救援活動をありのまま記録している。体験から出てきたコメントばかりで、しばし編集の手が止まって改めて感極まることもあった。重複箇所も多々あるが、それぞれの立場での言葉故に、尊重してあえて掲載したことをご了解頂きたい。

最後に、辻本全浄青理事長始め各方面よりご助言を頂戴した。また、このような記録誌発行の機会を与えて頂いたことに感謝します。

重ねて、ご無理な執筆をお願いした方々の師名を記載して、感謝の気持ちとします。尚、役職名は、震災当時のものです。

編集子　合掌

兵庫教区	生水康昭	兵庫浄青会長
京都教区	伊藤雅彦	近畿ブロック浄青事務局長
兵庫教区	浦上博隆	近畿ブロック浄青副理事長
和歌山教区	榎本了示	和歌山浄青会長
大阪教区	大島隆伸	全国浄青事務局長
大阪教区	神田眞晃	全国浄青理事長
京都教区	小林浩輝	京都浄青会長
京都教区	塩竈義明	近畿ブロック浄青理事長
兵庫教区	高倉和英	兵庫浄青幹事
長崎教区	辻本良明	九州ブロック浄青理事長
大阪教区	羽田雅法	大阪浄青副会長

京都教区	土方了哉	近畿ブロック浄青事務局次長
滋賀教区	眞泉善章	滋賀浄青会長
滋賀教区	前田晃秀	近畿ブロック浄青監事
大阪教区	森俊英	大阪浄青事務局次長
奈良教区	山中眞悦	近畿ブロック浄青監事
大阪教区	山本典雄	大阪浄青会長（五十音順）

（編集委員：生水康昭・浦上博隆・高倉和英・羽田雅法）

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"
(デジタル化：神戸大学附属図書館)